

**ファイザー**  
**Competitive Grant program**  
**Request for Proposal**

肺血栓塞栓症による死亡を撲滅するための取り組み

**I. はじめに**

ファイザーのQuality Improvement Grantsは、医療現場において生じている“プラクティス・ギャップ（医学的・科学的知識はあるけれど、実際の診療や看護などの実践・行動に移せていない、またはその実践・行動が普及していない）や、“クオリティ・ギャップ”（医学的・科学的知識はあり、実際の診療や看護など、実践・行動はしているけれど、良い結果・成果が得られない）を埋めるためのプロジェクト、すなわち、医療従事者の行動を変革するプロジェクトに対し、助成金として支援するものです。

注意事項）Appendixは英語版をご参照ください

**II. 応募資格**

対象国:	日本
申請団体要件:	以下の施設・団体に所属し、その所属施設・団体として申請してください。個人として申請することはできません。 <ul style="list-style-type: none"><li>● 大学、大学病院、地域中核病院、その他医療系の教育機関</li><li>● 医療系の学会・研究会等</li><li>● 医療系の財団法人・NPO 法人等</li><li>● 医師会・薬剤師会・歯科医師会</li><li>● その他医学教育を事業としている団体</li></ul> 応募の際には、各所属施設・団体からの了解を得てください。

**III. 公募詳細**

公募開始日:	2019年2月28日
公募対象疾患:	肺血栓塞栓症

<p><b>本公募の目的:</b></p>	<p>肺血栓塞栓症による死亡を撲滅するための以下の様なプロジェクトが支援の対象となります。</p> <p><b>* 介入試験、臨床試験、非臨床試験、疫学研究等の研究を含むプロジェクトは支援対象外です。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 医療従事者(非専門医や看護師等も含む)に対して肺血栓塞栓症に対する意識を向上させ、患者の発症リスク把握と情報共有に導くプロジェクト</li> <li>● 患者が主体的に肺血栓塞栓症に対する予防法を実施できるように、また早期発見へ患者の協力が得られるように導くプロジェクト</li> <li>● 肺血栓塞栓症が発症した時に早期発見・早期診断を促進させるプロジェクト</li> <li>● 施設内もしくは地域において医療連携の体制を構築し、肺血栓塞栓症の診断と治療を促進させるプロジェクト</li> </ul> <p>また、下記の点を考慮したプロジェクトが重要であると考えられます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 既存の取り組みとは異なり、「肺血栓塞栓症による死亡を撲滅する」の目的を持ち、新規性を有する内容</li> <li>◇ 複数の診療科や複数の医療機関に影響を与えることができるような内容、もしくは将来的にその様な影響が見込める内容</li> <li>◇ プロジェクト実施をきっかけに継続的な取り組みに繋がる事が期待できる内容</li> <li>◇ SMART(具体的、測定可能、達成可能、現実的、時間制約)ゴールを有する内容</li> </ul>
<p><b>プロジェクトの対象者:</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 静脈血栓塞栓症リスクのある患者さんをケアする医療従事者</li> <li>● 静脈血栓塞栓症の診断及び治療の質を向上させる取り組みに関心のある医療従事者</li> </ul>

<p><b>本公募の背景:</b></p>	<p>急性肺血栓塞栓症は、特異的な早期症状が無く突然発症し、死に至る経過をたどる確率が高い疾患の1つである。</p> <p>日本においては発症頻度が低い疾患と考えられていたが、生活習慣の変化や高齢者の増加に伴い肺血栓塞栓症の発症率は増加したと報告されている。</p> <p>2004年に『肺血栓塞栓症および深部静脈血栓症の診断、治療、予防に関するガイドライン』の初版が発表され、後に各領域でもガイドラインが策定され、診療報酬でも予防管理料新設する事によって肺血栓塞栓症は減少し、周術期の死亡も低下傾向となっている。</p> <p>しかし、医療事故調査・支援センターへの死亡事例の報告は続いており、2017年に日本医療安全調査機構は医療従事者に対して再発防止のために対策を講ずるよう勧告した。(1)</p> <p>肺血栓塞栓症は初期症状からの診断が困難であり、発生から死亡までの病態の進行が急速であることなどの点から予防や早期の診断が困難を極め結果的に予期せぬ死亡に繋がっている。</p> <p>そのため、肺血栓塞栓症による死亡を防ぐためには下記の点が非常に重要である。(1)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 肺血栓塞栓症の特性を医療従事者が認識する事</li> <li>② 患者指導により肺血栓塞栓症予防協力</li> <li>③ 深部静脈血栓症の把握</li> <li>④ 早期発見・早期診断</li> <li>⑤ 適切な初期治療</li> <li>⑥ 院内体制の整備</li> </ol> <p>しかしながら、医療担当者、患者双方で深部静脈血栓症と肺血栓塞栓症という疾患の意識度において地域間、医療機関格差があると考えられる。</p>
<p><b>関連するガイドライン等:</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 肺血栓塞栓症および深部静脈血栓症の診断、治療、予防に関するガイドライン（日本循環器学会 2017年改訂版）</li> <li>● 肺血栓塞栓症/深部静脈血栓症（静脈血栓塞栓症）予防ガイドライン（肺血栓塞栓症/深部静脈血栓症（静脈血栓塞栓症）予防ガイドライン作成委員会）</li> <li>● 症候性静脈血栓塞栓症予防ガイドライン 2017（日本整形外科学会）</li> <li>● Antithrombotic Therapy for VTE Disease: Antithrombotic Therapy and Prevention of Thrombosis, 9th ed: American College of Chest Physicians Evidence-Based Clinical Practice Guidelines. Chest Volume 141, Issue 2, Supplement, February 2012, Pages e419S-e496S</li> <li>● 2014 ESC Guidelines on the diagnosis and management of acute pulmonary embolism. European Heart Journal, Volume 35, Issue 45, 1 December 2014, Pages 3145-3151</li> </ul>

<p><b>現状課題：</b></p>	<p>日本医療安全調査機構では急性肺血栓塞栓症に関連する死亡例を分析し、医療機関に対して下記の様な取り組みが必要であると促している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医療従事者は急性肺血栓塞栓症という疾患について理解し、急性肺血栓塞栓症が発症する可能性がある事を常に認識することで、患者毎に発症リスクがどの程度あるかを把握し、その情報を医療チームで共有する必要がある。</li> <li>・患者が急性肺血栓塞栓症という疾患について自身の発症リスクの程度を知ること、主体的に予防法を実施できるようになるとともに、静脈血栓塞栓症を疑う症状が出現したときは医療従事者へ伝える事ができるようになる事も重要である。</li> <li>・臨床症状から深部静脈血栓症が疑われた場合は、下肢静脈エコーなどを実施し血栓症を確認すべきであり、急性肺血栓塞栓症が疑われる症状が生じた場合は、造影 CT などの実施を検討し早期診断に繋げるべきである。</li> <li>・急性肺血栓塞栓症の治療は急性期を乗り切れば予後が良好と言われているため、早期の症状・所見出現時から迅速な治療を開始する事が重要である。</li> <li>・急性肺血栓塞栓症のリスク評価、予防、診断、治療に関して、医療安全の一環として院内で相談できる組織（担当チーム・担当者）を整備する。必要があれば院外への相談や転院などが出来るような連携体制を構築する。</li> </ul> <p>しかしながら、医療担当者、患者に双方において、深部静脈血栓症・肺血栓塞栓症という疾患に対する意識が必ずしも高くない、そのため目の前に患者がいても気付かず、積極的な診断が行われていない現状がある。その結果、原因不明のままもしくは手遅れとなって死に至るケースが少なくない。(1)</p>
<p><b>現時点で日本において実行されている取り組み：</b></p>	<p>2004年に『肺血栓塞栓症および深部静脈血栓症の診断、治療、予防に関するガイドライン』の初版が発表され、後に各領域でもガイドラインが策定され定期的な改訂が行われている。</p> <p>診療報酬でも予防管理料新設するなど医療機関に対して取り組みを促す対策がとられている。</p> <p>日本医療安全調査機構では急性肺血栓塞栓症に関連する死亡例を分析し、医療従事者に対して再発防止のために対策を講ずるよう勧告した。さらに、学会や製薬企業は再発防止のための活動を支援し推進すること促している。</p>
<p><b>本公募の助成額：</b></p>	<p>プロジェクト1件あたりの上限度額：5,000,000円</p> <p>助成額は、外部有識者等による審査会にて決定されます。</p>

<p><b>締切日等 スケジュール:</b></p>	<p>RFP リリース日 : 2月28日</p> <p>Letter of Intent (1次申請) 締切日 : 6月20日</p> <p>Letter of Intent 審査 (1次審査) : 8月</p> <p>Letter of Intent 審査結果通知 : 8月</p> <p>(1次審査を通過した場合)</p> <p>Full Proposal (最終申請) 締切日 : 9月</p> <p>Full Proposal 審査 (最終審査) : 10月</p> <p>Full Proposal 審査結果通知 : 10月</p> <p>* 助成金は契約締結後、支払い手続きが行われます。</p> <p>助成金を使用したプロジェクトの実行: 2020年1月以降</p>
<p><b>申請方法:</b></p>	<p>申請はオンラインにて、ファイザー米国本社の申請システムより お願いします。</p> <p><a href="http://www.cybergrants.com/pfizer/loi">www.cybergrants.com/pfizer/loi</a></p> <p>初めて申請をされる方は、まず“Create your password”をクリ ックし、アカウント登録を完了してください。</p> <p>申請に必要な情報を申請システムに入力しにプロジェクトの概要 等を記載の上、システム内にアップロードしてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・申請システムへの入力は全て英語でお願いします。</li> <li>・プロジェクトの概要 (Letter of Intent) のみ日本語での応 募も可能ですが、審査の過程で英訳する必要がありますので、 意図した内容で正確に英訳がなされる保証はありません。</li> </ul> <p>Competitive Grant Program Name は” Quality Improvement Activities to Prevent Fatal Pulmonary Thromboembolism” を選 択してください。</p> <p>システム上の不具合・エラー等が生じた場合は、ページ下部にあ る“Need Support?” よりお問い合わせください。</p> <p>注意事項: 申請タイプを間違えて提出がなされた場合、または締 め切り後に提出された場合は、その理由如何によらず、受領でき ないことを予めご了承ください。</p>
<p><b>問い合わせ:</b></p>	<p>MEG-J 事務局 : <a href="mailto:meg.japan@pfizer.com">meg.japan@pfizer.com</a></p>
<p><b>今後の案内について</b></p>	<p>申請受理後、各種案内はメールでお知らせ致します。 不足資料・疑義事項等がありましたら、事務局より問い合わせを させて頂く場合もございますので、予めご了承ください。</p>

[リファレンス]

- (1) 急性肺血栓塞栓症に係る死亡事例の分析 - 日本医療安全調査機構